

【日本人の品性や徳の高さが感じられるお話し】

皆様、こんにちは。

本日はちょっと違った観点から、食糧危機のお話をさせて頂きたいと思います。
日本人の品性や徳の高さが感じられる素晴らしい話です。

食糧危機に際して江戸時代に「打ちこわし」という事件がよくあり、庄屋や豪商が襲われたということは、歴史の教科書で皆さんご存知かと思います。
私はてっきりそこで食糧を強奪したのかと思っていたのですが、(実際そういう事も多少はあったと思いますが...)大半は首謀者が米蔵から米をぶちまけ、この様な食糧危機の際には弱者に配るのが、富者や為政者の義務なのではないか！と、滔々と演説し、そのまま帰っていったとの事です。

富者や為政者側も、この様な辱めを受けるのなら...とその後、米を配る様になったりした例も多かったそうです。また、襲われた富者や為政者の方が処罰された例もあったそうです。

この様なDNAは、「3.11の際に盗みがほとんどなかった！」と世界が驚嘆した現代の日本人にもしっかり受け継がれています。

ハリケーン・カトリーナの時のアメリカや、ユニクロの不買運動の時の中国も泥棒だらけでしたからね...

また同様に百姓一揆の時にもしっかりとしたルールがあった様です。
これは小名木善行さんから聞いた話ですが、

教科書では‘百姓一揆’は暴動みたいに書かれているが、百姓一揆にはきちんとした掟があり・・・

1. 田畑を荒らさない
2. 役人に不敬を働かない
3. 喧嘩・騒ぎを起こさない
4. 火の元を嚴重に
5. 酒は無用となっていた。

江戸時代の260年間で1430件の百姓一揆があったが、役人が死んだのは一人である。

鍬や鋤をもって集まるのは、暴力をふるうためではなく、‘我々は農民である’というシンボルの為を持ってくるのである。今でいう、労働組合の団体交渉の際に掲げられる旗の様なものである。

どうも日本の教科書は、日本人の高潔さを子供達に知られたくない様ですね。

これも小名木善行さんから聞いた素晴らしい言葉です。

日本以外に千年以上続いた国はない。しかも他国はほとんどすべて征服や戦争での篡奪。
日本は‘助け合い’で、食糧を共同で備蓄していくところから自然に国が始まっている。
都とは本来、米蔵という意味で、これを共同体の中心にして国づくりが始まった。

現代の我々も品性を失うことが無い様、またできれば困っている人に配れる様、ある程度の備えはしておくべきですよ。

ブラックスワン食糧保障
草間 弘人